



日野市環境情報センター(愛称かわせみ館)は環境に関する情報を収集・分析・発信するために、2005年7月に市民・事業者・学校・行政の協働で開設されました。

平成27年度環境フェアで「かわせみ館ブース」開設、多くの市民の方々が訪れました

平成27年度環境フェアは 11月15日(土)、16日(日)に日野市民の森ふれあいホールで第49回日野市産業まつりと同時開催されました。ご当地キャラが大集合し多くの市民で賑わうなか、環境情報センターは「かわせみ館ブース」を開設しました。今回は協働事業を行っている中央大学経済学部田中ゼミの学生たちが実施した中大生を対象とした「日野市の自然に関するアンケート調査」の発表と、同じく学生たちが監修した「環境クイズ」、環境情報センターで作成した「2013年度日野市環境白書パネル展」を行いました。ブースの運営には中大生も参加し、調査の解説やクイズの案内など大いに活躍しました。

「日野市の自然に関するアンケート調査」は中大多摩キャンパスに通っている学生305名を対象に、日野市の自然環境への評価や関心度合を聞き、若い人たちが日野市の自然をどのように見ているのかを知るとともに、日野市の目指すべき自然のあり方を探るものです。調査結果をパネル展示した発表コーナーには30名ほどの市民が訪れ、学生たちの説明に耳を傾ける人や、パネルをスマホで撮影する人もいました。「環境クイズ」は日野市の森林面積や湧水量についての質問など環境に関するもので、子供たちを中心に281名が挑戦、中にはクイズの答えをお子さんに熱心に解説するお父さんもいました。回答者にはエコマ・エコアラのシールや缶バッジ、廃木材を再利用した鉛筆などの景品が渡されました。「2013年度日野市環境白書パネル展」では市民の皆さんにとって関心が高い水や緑、ごみ、大気汚染など10項目の指標についてわかりやすく解説しました。また、ブースでは「緑のトラスト募金」も実施、80名近い市民の方々が募金に協力してくださいました。

環境フェアの2日間でブースには合計495名の市民の皆さんが訪れ大盛況でした。



中大生が実施した調査の発表コーナー



子供たちもクイズに挑戦



緑のトラスト募金



ブースの案内看板

2014年度(平成26年度)日野市環境白書が発刊されました

日野市では、環境基本条例に基づき環境に関する年次報告書として「日野市環境白書」を毎年12月に発刊しています。「環境白書」は日野市環境基本計画の柱である5つの分野、「みどり」「水」「ごみ」「地球温暖化」「生活環境」のそれぞれの分野ごとに環境指標を設定し、毎年の移り変わりを図表などで示しています。また、市民の皆さんの協力をいただいて、計画の進行状況の評価、確認を行っているほか、市の機関、市内の市民団体・学校・事業者などの環境への取り組みについても紹介しています。

2015年12月に発刊された「2014年度日野市環境白書」では、日野市が2014年度に実施した環境への取り組みのトピックスとして、「「浅川なにがいるかな」体験学習会開催」「日野市環境マネジメントシステム「ひのエコ」」

「日野市雑木林ボランティア講座10周年記念シンポジウム開催」の3つを紹介しています。

また、上記5分野の環境指標をみると、全部で49項目ある指標のうち、前年より「よくなったもの(目標70%以上達成含む)」が34項目、「わるくなったもの」が5項目、「どちらともいえない、判断できない」が10項目となっています。

「よくなった」の比率の高い分野は「水:8項目」や「ごみ:11項目」でともに8割を超え、水質やごみ排出量などが改善しました。「わるくなった」比率がやや高いのは「地球温暖化:8項目」で25%(2項目)でした。

「白書」は市の環境に関する様々な情報を集約した内容となっていますので、是非ご覧ください。環境情報センターでは、環境セミナーやかわせみ館フェアなどのイベントを通して、市民の皆さんが「白書」に触れる機会を増やしていきたいと考えています。

「白書」の内容は市のホームページに掲載しているほか、市立図書館などで閲覧できます。入手を希望される方は環境情報センターまでお問い合わせください。

2014年度(平成26年度)
日野市環境基本条例18条に基づき年次報告書

日野市環境白書



「浅川なにがいるかな」体験学習会開催

日野市

若い人たちは日野の自然環境をどのように見ているのでしょうか？

～中央大学多摩キャンパスの学生305人に聞きました～

日野市（環境情報センター）と中央大学経済学部は、地域の環境改善に向けた協働事業に取り組んでいます。このたび今年度の協働事業の一環として、経済学部の学生が中心となって中央大学多摩キャンパスに通う学生305人を対象に「日野市の自然に関するアンケート調査」を実施しました。若い世代の日野市の自然環境に対する関心度と評価について、学生たちがまとめた調査結果の概要を報告します。この調査結果は今年度の環境フェアで発表しました。

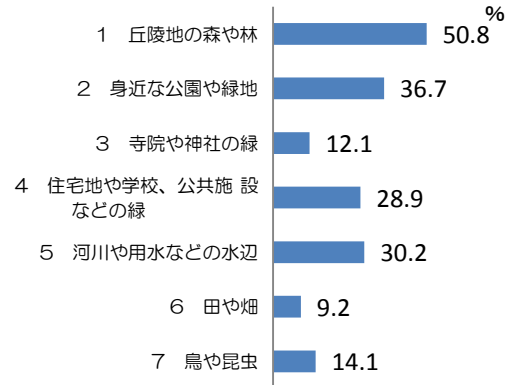
調査は2015年の10月1日から8日までインターネットで行い、回答者は305人、男女比はほぼ半々、日野市以外から通っている学生が305人中267人で約9割でした。主な調査結果は以下の通りです。

日野市の自然を感じるのとは右表のとおり「丘陵地の森や林」「身近な公園や緑地」そして「河川や用水などの水辺」でした。“水と緑の日野”は若い人にもしっかりと実感されています。市の鳥が「カワセミ」であること、「水の郷」と呼ばれるほど湧水など水が豊富なことを知っているのは10人に1人ほどです。また、市内の施設についてみると、知っている人が多かったのは「多摩動物公園」90%や「高幡不動尊」81%でしたが、日野市の水と緑を象徴する「黒川清流公園」は対象者の約9割が市外の居住者ということもありますが17%と低く、日野市のいいところをもっと積極的にPRする必要があるとしています。

「自然環境の点から日野市に住んでみたいか」を聞いたところ、「住んでみたい」は42%、「どちともいえない」が38%でした。日野市の自然を評価しながらも都心の利便性も魅力、というジレンマがあるのかもしれませんが。

調査を行った学生たちは、「“水と緑”は日野市のアイデンティティ、これからも大切にしながら、もっとアピールしよう」、そして「少なくとも中大生は日野市に対して好感を持っていることは間違いない」と結んでいます。

Q.あなたにとって日野市の自然を感じるのとはどんなところ？3つまで○をつけてください。（305人）



日野市の昆虫たち（その3）

日野の自然を守る会 森川正昭

<多摩丘陵と多摩川河川敷、互いに違う環境で生息する昆虫たち>

2. 河川敷特有のガ

前はチョウについてお話をしましたが、今回はガについてお話をします。もともとガはチョウと同じ仲間ですが分類学上は鱗翅目(チョウ目)というグループに入っています。その内、ガは日本では現在6,000種類近くが記録されていますが、これは日本で記録されているチョウ約260種類の20倍以上の数で非常に多くの種類が生息しています。

さて、日野市では何種類くらいのガが生息しているのでしょうか。すこし古い記録ですが、日野の自然を守る会の神保一義氏は1993年に1,004種類を報告(注)しています。しかし、その後も新たな種類が見つかっており、今後も多くの種類が見つかることと思います。今回は河川敷で見られる昼飛性のいくつかの珍しい種類のガを紹介します。

(注) 野生生物の調査報告書1993年（日野の自然を守る会）

○フチグロトゲエダシヤク

早春の2月下旬から3月に発生し、日野市内では1991年3月に浅川の堤防で最初に発見され、東京都では未記録の種類であったために研究者が驚かされた珍しいガです。浅川の高幡橋付近の堤防から、浅川と多摩川の合流点辺りまで見られますが数は多くありません。

♂は非常に速く飛びますが、♀は翅が退化しており飛ぶことができないため、河川の改修工事により発生地の環境が変わると絶滅してしまう可能性があります。



2015. 3. 10撮影

○キタバカノコ

多摩川と浅川の合流点付近に多く見られ、現在、多摩川流域では日野市のみ知られている珍しいガです。年2回、6月下旬と8月頃に河川敷に広がる草地に発生し、近似種のカノコガによく似ていますが、腹部がオレンジ色でよく目立ち区別できます。



2013. 6. 28撮影

○ルリハダホソクロバ

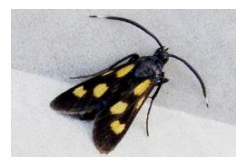
多摩川河川敷に広がるチガヤ、オギなどの草原で年1回、6月から7月に発生し、腹部や翅がルリ色に輝く美しいガです。あまり飛ぶことはなく葉に止まっているのを見ますが、数は多くないようです。



2013. 6. 25撮影

○ヤホシホソマダラ

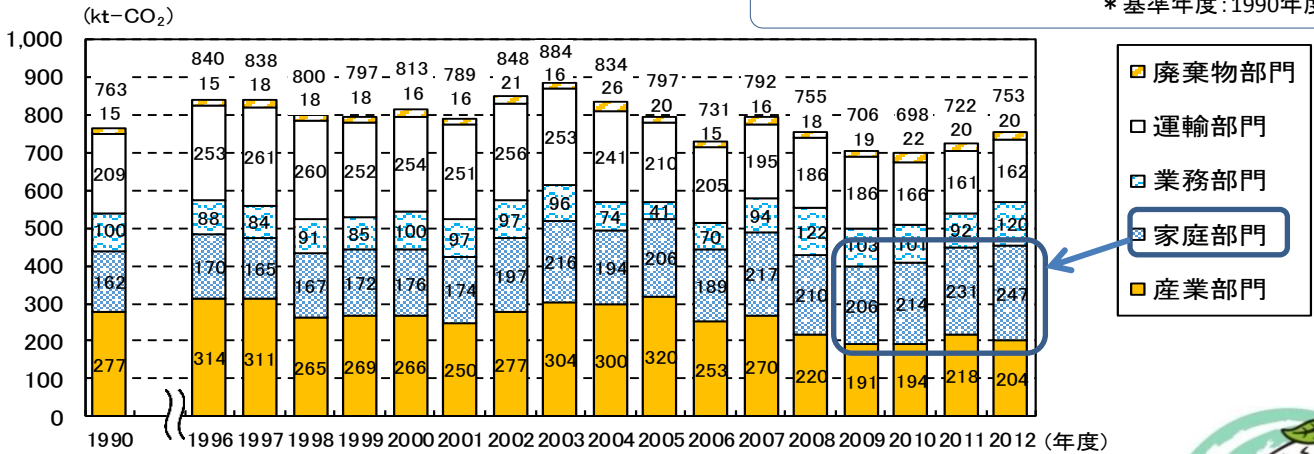
多摩川河川敷のチガヤ、オギなどの草原で見られ、年2回、6月と9月に発生します。黒い翅に黄色い斑紋が美しいガで、飛び方はハチのように直線的に飛びガとは思えません。丘陵地に近似種のキスジホソマダラがいますが、本種の方がはるかに少ない珍しいガです。



2015. 9. 11撮影

■2014年度日野市環境白書から①「日野市の二酸化炭素(CO2)排出量はどれくらい？」

削減率／量の短期目標値：10％／75.0kt-CO2(2015年度)
* 基準年度：1990年度



2012年度の日野市の二酸化炭素(CO2)排出量は753 kt-CO2で基準年1990年と比べ10.0 kt-CO2削減されましたが、短期目標値とはまだだいぶ開きがあります。部門別でみるとCO2排出量が最も多いのは家庭部門で前年度と比べると6.9%増加しています。家庭部門は2009年度に初めて部門別で最大の排出量となり、それ以降2012年度まで増加傾向が続いています。

今、世界中で異常気象を引き起こしている地球温暖化に最も大きな影響を与えているのはCO2排出量の増加といわれています。CO2排出量の削減のために、暮らしの中で私たちができることは何かをご家族で話し合い、行動することが求められています。

現況のCO2排出量は、オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」により作成された温室効果ガス排出量算定手法の標準化区市共通版の数値を基準としています。当手法では2012年版が最新データとなっています。

■「第8期市民環境大学」講座生募集！環境問題に関心のある方参加してみませんか

市民環境大学は、地球規模から身の回りの環境まで幅広く考え正しく知ること、問題解決のためにみんなのできることを実践することを目的とした講座です。講座は5月から7月の前期と、10月から12月の後期に分けて合計20回開かれます。前期・後期を通して出席された方には修了書をお渡しします。7期までの講座修了者は累計で102人です。講座の内容は身の回りの環境の基礎から大学で行っているような専門的なものまで含んでいます。 「地球温暖化の影響と対策」「水質汚染と対策」「日野市の水と緑」など、いろいろな事例や最近の話題などを取り上げ、わかりやすく説明していきます。参加者による話し合いも活発です。どうぞお気軽にご参加ください！

<募集要項>

開催期間：前期 平成28年5月～7月(全10回)
後期 平成28年10月～12月(全10回)
時間：毎週木曜日 午前10時～12時
場所：日野市環境情報センター2F会議室
対象：18才以上の日野市在住者または在勤者
定員：20名(先着順)
受講料：無料
申込締切：平成28年4月16日(土)

*お申込みは日野市環境情報センターへ電話またはFAXをお願いします。(最終面参照)

■「第12期雑木林ボランティア講座」講座生募集！雑木林の大切さを学びましょう

現在、放置されたままになっている雑木林は、わずか50年前まで私たちの暮らしにとってかけがえのない大切な場所でした。日野市雑木林ボランティア講座は、昔のような明るく健全な雑木林を維持管理し次世代に引き継ぐことを目的に、市民と行政の協働で平成17年にスタートしました。10期(平成26年度)までの講座修了者は累計で216人になっています。今期(11期)も31名の方が講座に参加しています。この講座を通して専門的な知識や技術を習得した雑木林ボランティアを育成し、新しい緑の保護団体を設立したり、既存の緑の団体で活躍してもらおうと頑張っています。講座は雑木林の基本的な講義から始まり、手道具、刈払い機、チェーンソーの実習など雑木林の管理ノウハウを、1年間(5月～翌年3月の全10回)にわたり習得するものです。是非、本講座に参加し、一緒に楽しい汗をかきながら雑木林の大切さを学んでいきましょう！

<募集要項>

主催：水と緑の日野・市民ネットワーク他
開催期間：平成28年5月～平成29年3月
時間：毎月、主に第3土曜日(全10回)
午前9時30分～午後3時
(第1回と10回は午前中で終了)
実施会場：南平丘陵公園他
対象：日野市在住者または在勤・在学者
定員：30名(先着順)
参加料：2,000円(保険代など)
申込締切：平成28年4月13日(水)

*お申込みは日野市環境情報センターへ電話またはFAXをお願いします。(最終面参照)

■10月～12月の活動報告

10月24日（土） みんなの環境セミナー「里山づくり」開催

10月24日（土）9：30～15：00 雑木林ボランティア講座の公開講座として開催。午前は里山の自然と保全活動をテーマとした講演会が行われました。会場は生活・保健センター講座室、講師は明治大学農学部教授倉本宣氏です。今回は講師が今年の4月～9月に渡英し体験したロンドンの保全ボランティア活動の事例を交えてのお話でした。午後は神明緑地周辺を散策しながら植物観察をしました。参加者は講座生も含め36名でした。

11月21日（土） みんなの環境セミナー「日野の雑木林は今～雑木林を歩いて考える」開催

11月21日（土）9：30～15：00 南平丘陵公園や黒川清流公園など市内2か所の雑木林を歩いて、雑木林の今の姿とともに管理の現状と課題を学びました。参加者は市外の方も含め14名。南平丘陵公園では、セミナーに参加した緑と清流課の職員が萌芽更新について実例を紹介しながら雑木林の管理の現状を解説しました。黒川清流公園の雑木林では、東豊田緑湧会のメンバーから活動の様子についてお話がありました。昼食後、公園内を散策し吹上市区センターに集合、雑木林のこれからについて活発なディスカッションが行われました。環境基本計画推進会議みどりグループとの共催です。



南平丘陵公園を歩く



黒川清流公園で雑木林管理の話聞く



参加者によるディスカッション

11月24日（火） 水車で精米体験（潤徳小授業）、潤徳水辺の楽校と日野の水車活用プロジェクトが共催で実現

浅川潤徳水辺の楽校では20年前から潤徳小学校の5年生の授業で種まきから脱穀まで米作りに取り組んでいますが、最後の精米は農家に委ねていました。今回「日野の水車活用プロジェクト」から、向島用水親水路に復元された水車を活用して潤徳小5年生に精米体験を、という提案があり、水辺の楽校との共催で5年生自身の手による精米が実現し、子供たちの米作りが完結しました。今まで眺めていただけだった潤徳小の裏を流れる向島用水の復元水車を活用しての精米体験は、子どもたちに先人の米作りの苦労や水車の歴史と役割を教えてくれた楽しい環境学習になりました。



水車小屋で精米の説明を聞く子どもたち

12月3日（木） みんなの環境セミナー「向島用水を見る・知る・探る」開催

12月3日（木）10：00～12：00 市民環境大学の公開講座として開催。水車が勢いよく回る向島用水を訪れ、用水の整備の経緯や復元された水車の解説を聞きました。また、小倉センター長指導のもと用水の水質調査をしたり、センタースタッフによる向島緑地の植物観察などを行いました。参加者は講座生を含め20名でした。

＊＊1月～3月の行事・イベントのお知らせ＊＊

1月7日（木）～14日（木） 「日野の野鳥たち」写真展

「日野の生きものたち写真展」企画第3弾として市役所1階市民ホールで開催中です。日野の自然を守る会の協力で日野で見られる野鳥たちを紹介しています。1月1日発行の広報「ひの」でお知らせしました。

2月18日（木）～25日（木） 「日野の貴重植物」写真展

「日野の生きものたち写真展」企画第4弾として市役所1階市民ホールで開催します。写真は主に25年前（1990年）播本正常氏がまとめられた日野市内に生育する約1,000種の植物のリスト「日野の植物」に基づいて収集された植物の写真1,200枚のデータベースから選んで展示します。2月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

★第3回かわせみ館フェアのお知らせ★

開催日時：4月3日（日）～6日（水）（予定）

会場：日野市環境情報センター かわせみ館

市内の環境団体の活動紹介パネル展、生きもの写真展、小学生対象のセミナーやワークショップ、クイズなどを行う予定です。是非、お出でください。詳しくは3月15日発行の広報「ひの」でお知らせします。

「ひの緑のトラスト」募金活動にご協力を

百草地区には貴重な雑木林が市民と行政の協働により残されており、市民による保全活動が活発に行われています。この貴重な里山の保全を進めるため「ひの緑のトラスト」が設立され、募金活動を行っています。環境情報センターでは「ひの緑のトラスト」の事務局として、募金活動などを担当しています。市内の緑地保全のための募金にご協力をお願いします。詳細は環境情報センターまでお問い合わせください。



発行 日野市環境情報センター かわせみ館
〒191-0011 東京都日野市日野本町1-6-3
Tel/fax:042-581-1164
Eメール:kankyo@m2.hinocatv.ne.jp